□4月21日説教（隅野徹牧師　短縮版）

ヨハネの黙示録3：14～22「戸口に立って招くお方」

　神に対して「従うかどうかも分からない私たち一人ひとり」なのですが、それでも神は見捨てず、逆にいつも語りかけ、心の扉をたたいて下さっている、ということがこの箇所で証しされるのです。神が先に語りかけ、戸をたたいて下さっているからこそ、その呼びかけに気づくことができて「信じ、ついていく」ことができるようになるのです。そして「神と共に歩む中で、その絆は少しづつ深まっていく」のです。

　20節の2つ目からの文章をご覧ください。イエスの呼びかけに応じて、私たちが心の扉を開くと、イエスは私たちの内側に入って来られます。「わたしは中に入って」という言葉はとくに注目すべき言葉です。扉を叩いて、私たちが「心の扉をあけてはじめて」中に入られるのです。

　そして何をされるのかというと「共に食事をするのだ」とあります。つまり、戸口に立って心の扉をたたき続けて下さる「イエス・キリスト」の招きに気づき、キリストを心の中にお迎えしたなら、そこに愛の主イエス・キリストが入ってきてくださり、食事を整えて下さるのです。そして、共に食事を重ねる中で、「キリストとの歩みは、どんどん深さを増していく」のです。

　それは、家族や夫婦が「同じ食卓での食事を重ねるたびに、絆が深まっていく」のと同じです。イエス・キリストというお方は一度信じて受け入れたら「マンネリの生活」になるのではなく、「いよいよ、キリスト、そしてキリストの父なる神との絆が深められる…」そんな生活が始まったことを聖書は教えます。その「日々、神との絆が深まる生活の終点」は、21節の言葉にあるように「わたしたちが神の隣に座ることのできる、天の上の日々」です。天国での私たちの命は、「はるかかなたの遠いにあるもの」というより、私たちの「今の日常生活」とつながっているものなのです。　天国に向かっての私たちの日々は「イエス・キリストとともに食卓を囲み、絆を強めていく歩みの日々」です。　その道のりには「苦しいこと、思い通りにならないこと」が沢山あることでしょう。しかし、そこで冷めて、生ぬるくなってしまうのではなく、「イエス・キリストの招きに応え、日々共に歩む」思いを新たにしましょう。

それが神・キリストとの絆を「強める」ことに繋がっていくことを信じています。（終）